



全日病 S-QUE e ラーニング 看護師特定行為研修

呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連

区分別科目



(D) 人工呼吸器からの離脱

人工呼吸器からの離脱（ペーパーペイシェント）(1)

群馬大学医学部附属病院麻酔科助教・集中治療部

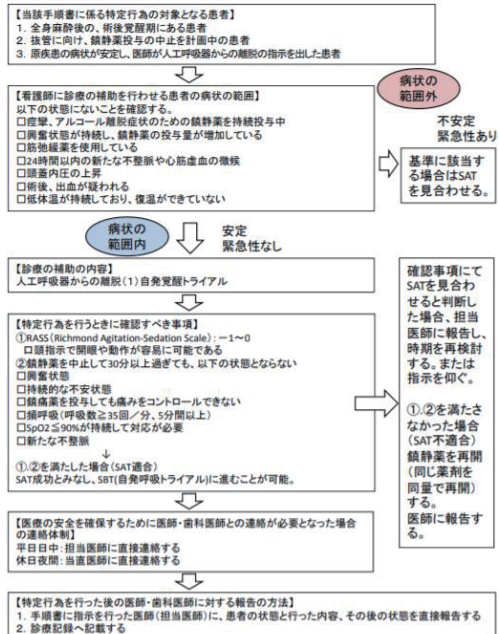
金本 匡史 氏

演習①

人工呼吸器からの離脱

群馬大学医学部附属病院
集中治療部
金本匡史

手順書：人工呼吸器からの離脱(1) 自覚覚醒トライアル (Spontaneous Awakening Trial, SAT)

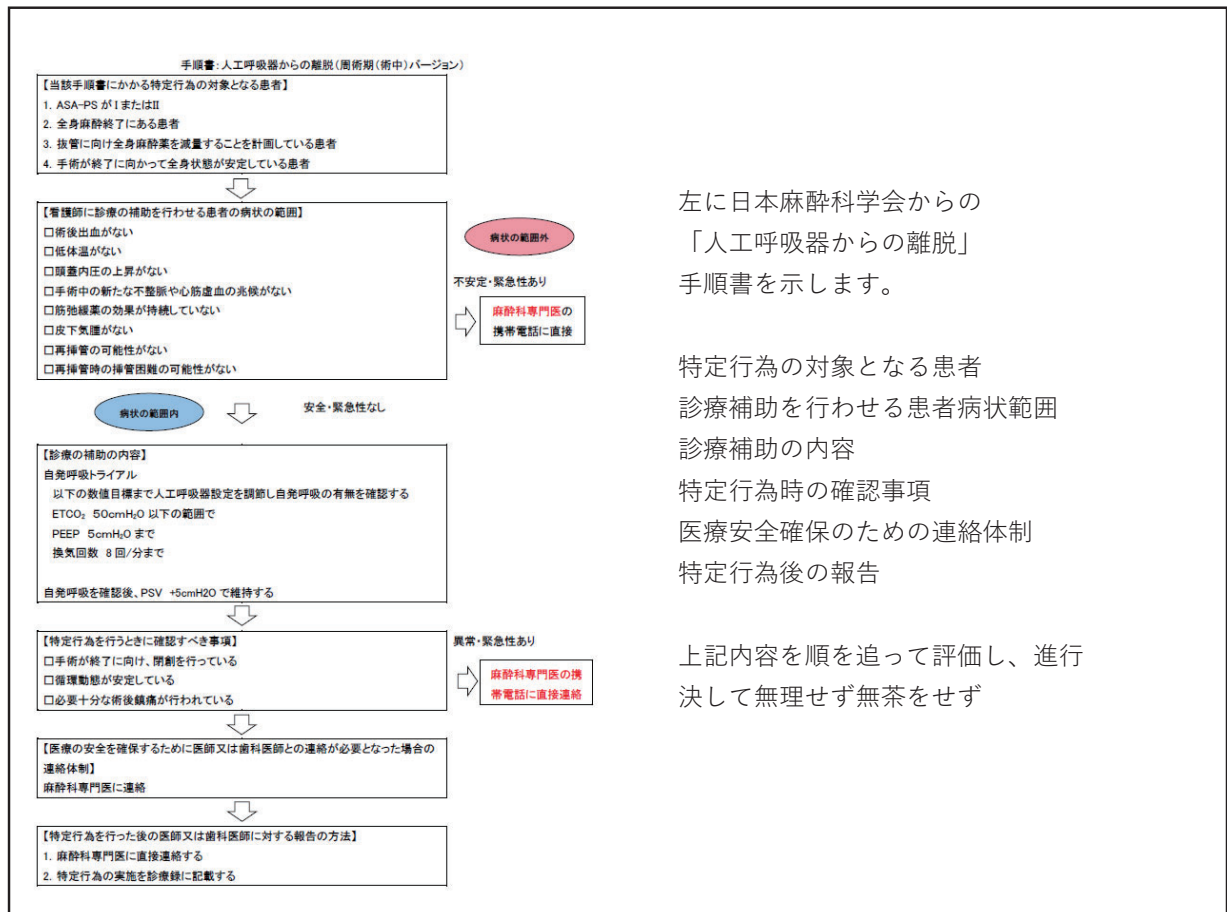
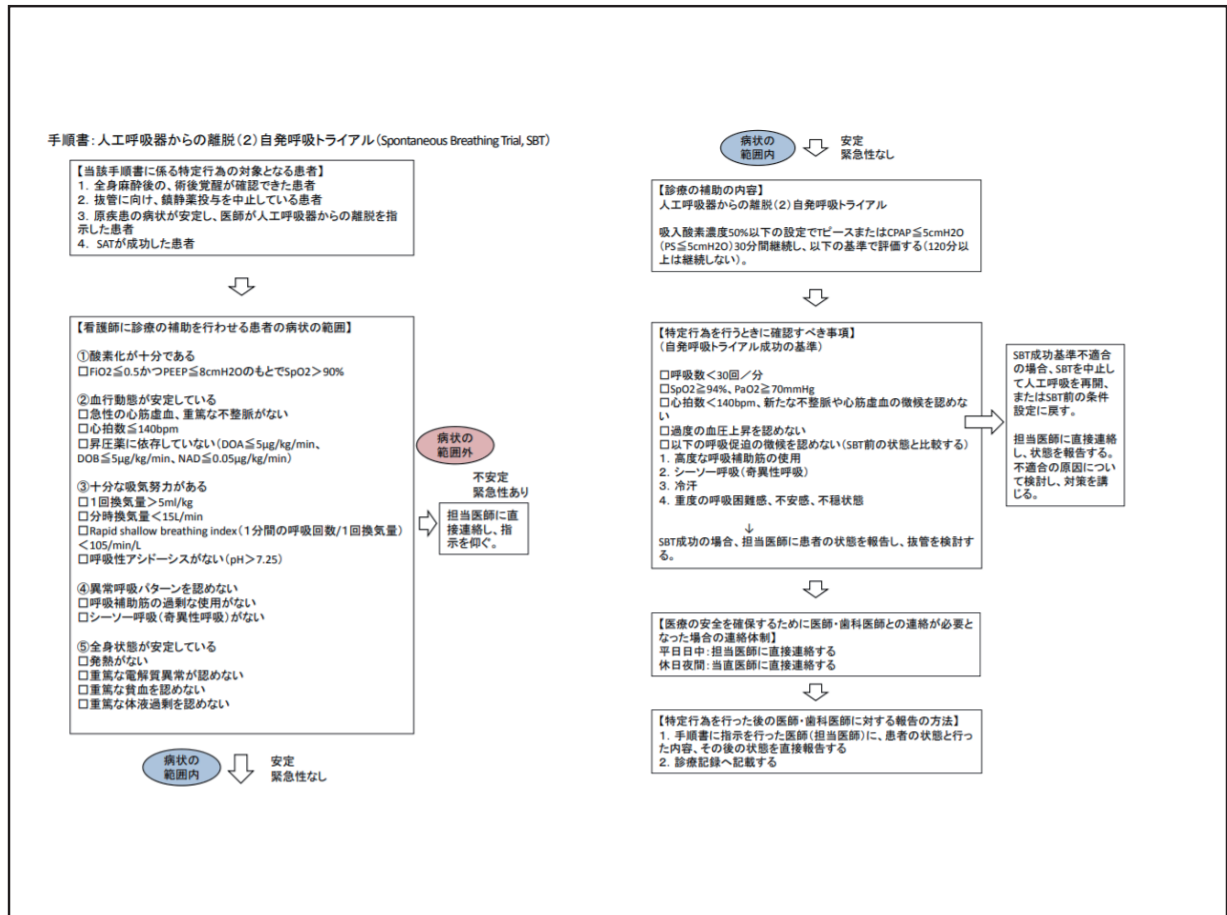


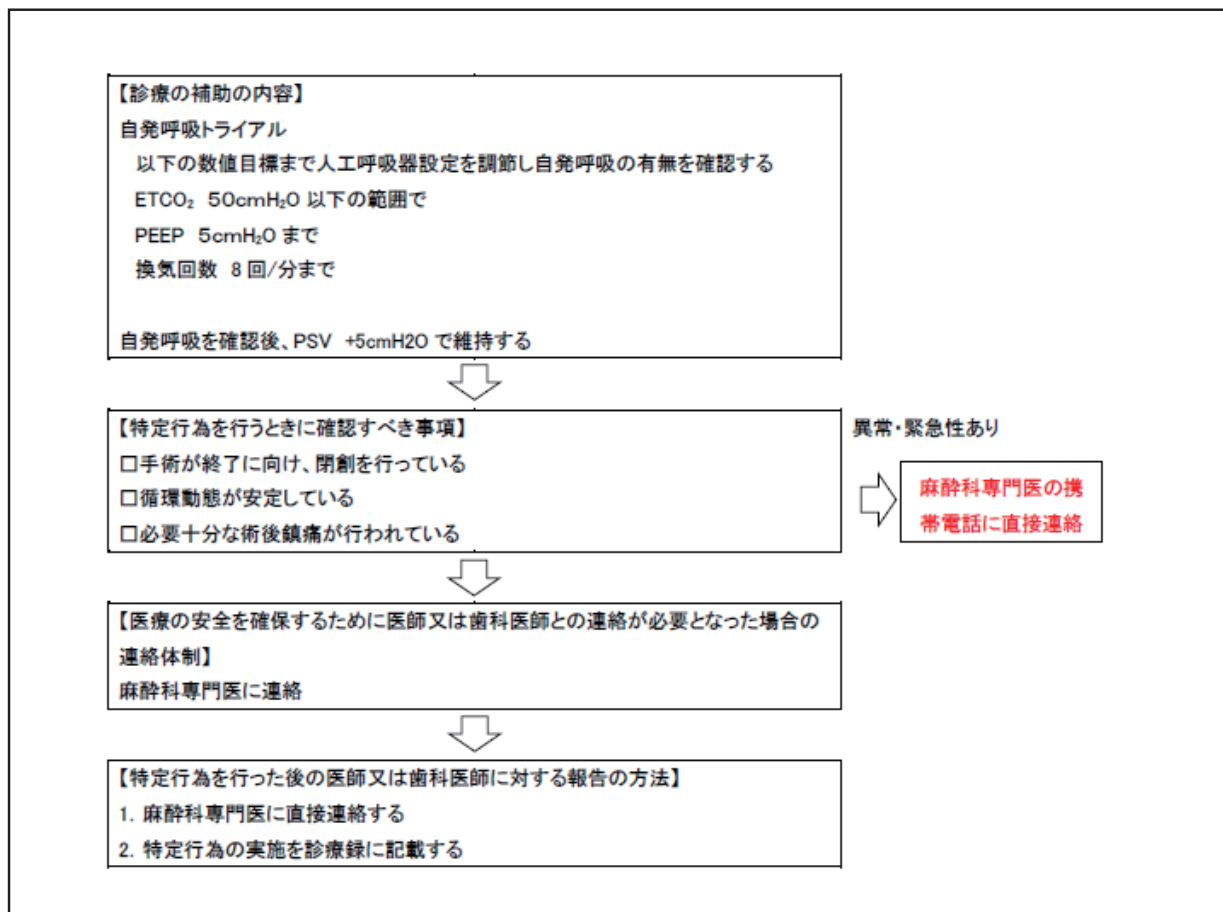
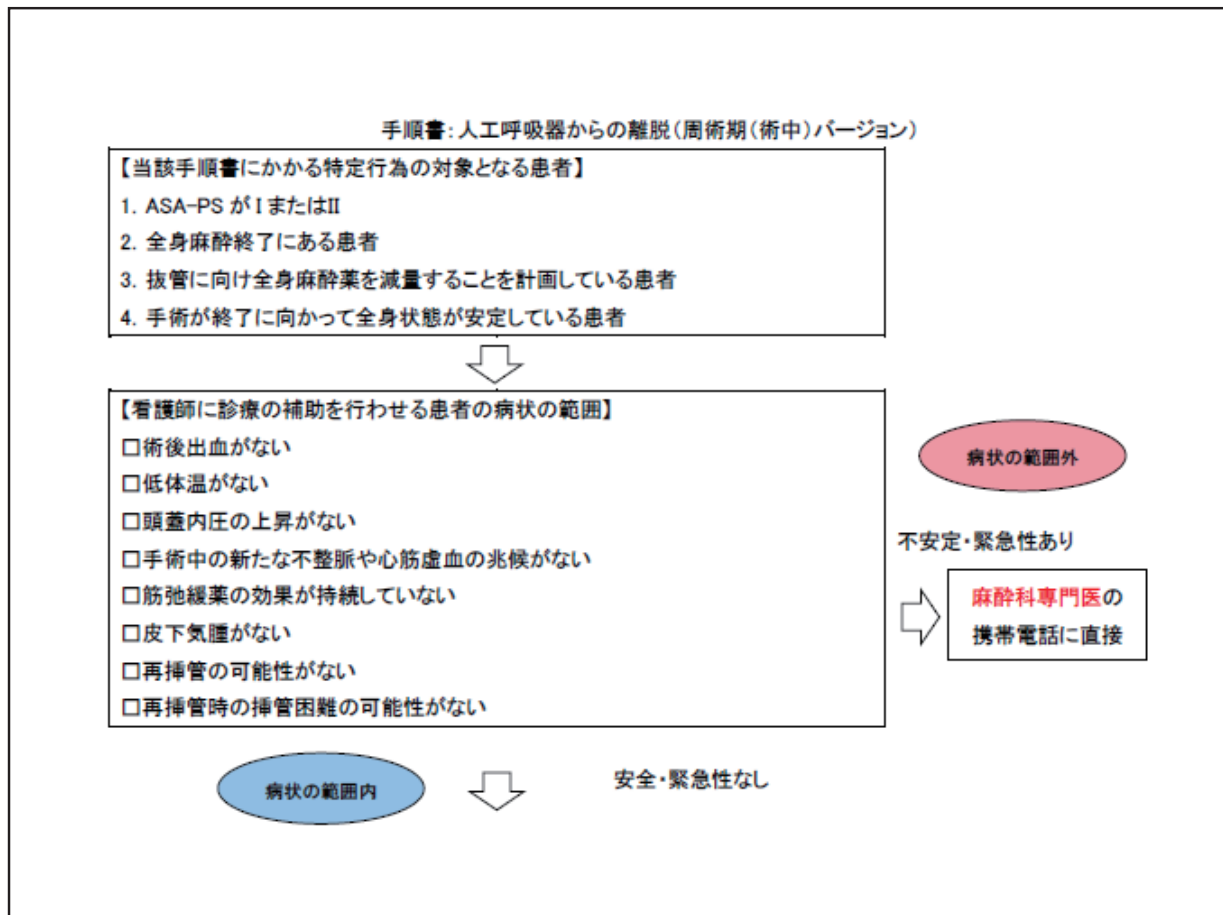
全日本病院協会の特定行為に係る手順書例集から
「人工呼吸器からの離脱：SAT・SBT」
を示します。

特定行為の対象となる患者
診療補助を行わせる患者病状範囲
診療補助の内容
特定行為時の確認事項
医療安全確保のための連絡体制
特定行為後の報告

上記内容を順を追って評価し、進行

【補記】
・人工呼吸器からの離脱に際しては、(1) 自覚覚醒トライアルと(2) 自覚覚醒トライアルという独立したプロセスがあり、手順書は2つに分けて作成した。
・(1) 自覚覚醒トライアルは、鎮静薬を中止または減量し、自覚的に呼吸が得られるか評価する試験のことである。鎮静薬を最小限にした方が人工呼吸器からの離脱を維持でき、長期的な死亡率などのメリットがあるため、不必要な鎮静薬を避けるのが、自覚覚醒トライアルの意図とされている。即ち、人工呼吸器が必要な患者の多くが最小限の鎮静薬のみで、鎮静薬を必要とせず管理可能である。
・(2) 自覚覚醒トライアルは、人工呼吸による補助がない状態に患者が置かれるかどうかを確認する試験である。患者が成功基準を満たせば抜管を考慮する。





人工呼吸器からの離脱（手術麻酔終了後）について

実際の症例ベースで考えていきます

今回は比較的単純な内容です

症例①

60代男性

胃癌に対して予定的に腹腔鏡下幽門側胃切除施行
既往は高血圧以外特になし

術中はほぼ予定通り進行し、術中出血も少量
予定通り一般病棟退室とし、手術終了後の胸腹部Xp
撮影も問題なく麻酔終了の運びとなった

以下の項目を、最適と思える順番通りに並べ替える

- A：気管内挿管チューブを抜く（抜管）
- B：麻酔終了（麻酔ガス、麻酔薬、麻薬等の投与終了）
- C：意識状態・換気状態を確認
- D：口腔内及び気管内分泌物の吸引
- E：筋弛緩薬のリバース
- F：（再）挿管となる準備確認（face mask・喉頭鏡等）

どうでしょうか

症例②

80代女性

HCV陽性肝臓癌に対して予定的に拡大肝右葉切除術施行
既往に10年前狭心症に対しPCI後

（術前循内対診にて問題なし）

その他COPD、気管支喘息で吸入薬並びに内服管理中
（術前呼内対診にて最近は安定しているとのこと）

手術進行は問題なく終了したが、術中数回行った動脈血
ガス採血では徐々に血中二酸化炭素分圧が上昇
気道内圧上昇など喘息発作は否定的

以下の項目の中で正しいものはどれか（複数あり）

- A：拡大肝右葉切除後の肝機能低下はほとんどない
- B：PCI既往だが循内対診で問題ないため心機能留意の必要なし
- C：呼吸機能は最近安定しており通常通り覚醒抜管を目指す
- D：二酸化炭素貯留は呼吸器離脱に関して大きな要因である
- E：喘息発作（気道内圧上昇）否定的の為、吸入薬は必要ない
- F：抜管後再挿管の可能性は、通常と変わらない

どうでしょうか